

和 ~ なごみ ~

冬号 No.26

平成25年12月20日発行

発行 医療法人協和会
協和会病院

発行責任者 増田 公人
連絡先 電話 06(6339)3455
ホームページ <http://www.kyowakai.com/>

開院25周年記念式典・パーティを終えて

院長 増田 公人



増田院長の開会挨拶

平成25年10月25日(金)千里阪急ホテル2階 仙寿の間にて協和会病院創立25周年記念式典・パーティを開催することが出来ました。

開院25周年を迎えられたのは、職員が目標達成に向けた日頃の努力と各関連施設の協力があればこそだと感謝いたしております。

当院は永年勤続者が結構多いのですが、若いスタッフにも今一度病院の沿革を理解してもらうため、25周年記念式典では職員から集めた開院以来の写真をもとに作成したスライドを観てもらいながら、昔を懐かしく思い出しながら私自ら解説を致しました。



式典 & パーティの会場風景



永年勤続表彰者の記念撮影

若手職員のスピーチ→
(ユーモアあふれるおもてなし)



法人内の協立病院、協立温泉病院のある川西市から離れた吹田市で、当院は救急からリハビリ・訪問看護まで考慮し、当時としては新しいタイプの病院を目指しスタートしました。しかしながら、当初は外来も出せず、紹介状持参の入院患者のみという吹田医師会との確約があり、稼働率アップには苦労致しました。何とか近隣地域に病院をアピールしたいと考え、希望される自治会に出張して超音波検診をしたこともありました。



過去と未来を語るシンポジウム



清瀧副院長の開会挨拶

少し年数はかかりましたが医師の確保、スタッフの協力もあって診療部門も充実し、やっとのこと念願の満床にさせることができ、職員同士で肩を叩き合い喜び合ったことも思い出の一つです。

今後も医療環境が充実している吹田地域において病院を存続させる為に、職員一丸となって努力してまいりますので、引き続き皆様方のご協力を賜りますようお願い致します。

25年のあゆみ

- 1988年 3月 協和会グループ第3番目の病院として開院 (内科・外科・整形外科・脳神経外科・リハビリテーション科)
(救急協力病院) 紹介患者様限定
- 1990年 3月 皮膚科開設
- 4月 リハビリテーション総合承認施設取得
- 7月 神経内科開設
- 1992年 6月 小児科開設
- 1996年 6月 感染対策委員会発足
- 1999年 7月 人工関節センター開設
- 2000年 7月 ヘリカルCT装置導入
- 9月 ロボドックによる手術開始・人工関節手術に最先端技術を採用
- 11月 医療安全対策委員会発足
- 2001年 6月 循環器科開設
- 1.5テスラの超伝導MRI装置導入
- 9月 血管造影装置導入
- 2002年 1月 リウマチ科開設
- 5月 回復期リハビリテーション病棟開設
- 6月 骨塩定量測定装置導入
- 12月 二次救急告示
- 2003年 8月 地域医療福祉連携室を設置
- 2004年 5月 敷地内禁煙を実施
- 11月 人工透析センター増床
- 2005年12月 回復期リハビリテーション病棟増設
- 2006年11月 2階病棟 閉鎖
- 2007年 3月 二次救急告示取り下げ
- 10月 日本医療機能機構より病院機能評価認定
- 2008年 8月 2階病棟 再稼働
- 2009年 4月 ミキシングルーム新設
- 2010年 9月 64列CT OptimaCT660導入
- フットケア外来開始
- 2011年 1月 X線TV (DR) 装置導入
- 5月 介護講座「介楽」の定期開催を開始
- 1.5テスラの超伝導MRI装置バージョンアップ
- 2013年 5月 認定看護師、セラピストマネジャー誕生
- 10月 25周年記念式典 (千里阪急ホテル)

セラピストマネジャーを取得して

理学療法科 主任 山口 修司



少し前の話しになりますが、2011年に全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会(現回復期リハビリテーション病棟協会)が主催するセラピストマネジャー認定コースを受講してきました。

この研修会は18日間(6日間×3クール)で計120時間にわたります。最終日には認定試験もあり、試験範囲はテキストで1000ページ。学生時代とは違った少し低下した自分の脳をフル活動させ、どうにか合格する事ができました。その結果、協議会認定のセラピストマネジャーの資格を得ることができました。

実は私が受講した研修会は第1回目であったため、私はセラピストマネジャーの第1期生になりました。この年の認定者は全国で124名、大阪府内では9名しかいないセラピストマネジャーの一人になりました。現在でも大阪府内でおそらく20数名しかいないと思います。当院にはその数少ないセラピストマネジャーがいる回復期リハビリテーション病棟(以下、回リ八病棟)であり、これがこの病院の誇れることの一つであると思います。

では、セラピストマネジャーとは回リ八病棟の中で一体どのような役割を果たす存在なのか? 当院の回リ八病棟の紹介と合わせながら説明したいと思います。

当院3階の東病棟・西病棟はともに回リ八病棟です。回リ八病棟の目的は日常生活動作能力の向上による寝たきり防止や在宅復帰に向けた多職種によるチームアプローチを提供することです。より良いチームアプローチを実践する為には適切な量と質の高いリハビリテーションが求められます。当院の回リ八病棟では365日リハビリを実施しており、日祝だけではなく年末年始であっても1日も休むことなくリハビリを実施しています。吹田市内でも365日リハビリを実施しているのは当院だけです。これまでに多くの患者様やご家族様にも満足していただいております。

また、当院では365日リハビリを行うだけではなく、一人一人の患者様の練習時間をしっかり確保するために多くのリハビリスタッフが在籍しています。回リ八病棟で質の高いリハビリテーションを提供するためにはリハビリスタッフの知識・技術向上やチームアプローチの実践が求められます。

そこで必要になるのがスタッフの教育やチームの管理をする者です。その役割を担うのがセラピストマネジャーになります。当院の回リ八病棟は年々チーム力を付けてきていると思います。私自身まだまだ未熟者ですが、26人いるチームを管理する上で常に次のようなことを考えています。

「1+1=?」

普通に答えれば答えは「2」です。しかし、チームというのは一人ひとりの力が合わさることでそれ以上のものになると考えています。つまり、26人の力がチームとして機能した時には「26」ではなく、「30」にも「40」にも「50」にも…「100」にもなり得ると思います。それがチームアプローチの強みであると思います。

しかし、もう一つ大切な考えがあると思います。それは「1+1=1」です。チームで目指していくことがバラバラではいけません。チームで一つの目標に向かって進んでいきたいと考えるからこそ、「1+1=1」という考え方も忘れてはいけません。当院の回リ八病棟は高いチーム力でより良いリハビリテーションを提供する事を目標にこれからも成長していきたいと思っています。

平成25年度『火災避難訓練』を終えて

当院では、職員による火災避難訓練を毎年行っております。今年も昨年同様に、土曜日の午後の時間帯を利用して日勤帯での火災を想定して訓練を行いました。

開催日時は、9月28日(土)午後1時～5時の4時間。参加職員100名。今年の研修では、初めての試みとして災害時ビデオ&トリアージ研修も取り入れました。職員一人ひとりが日頃から災害時の行動を意識して、迅速な避難誘導等が出来るように定期的な訓練に加えマニュアル整理も必要です。今回の訓練&研修を通じて日頃から防災に対する意識づけを高めていきたいと考えております。

《災害対策委員会》



シーツ搬送



講義



消火器訓練

豆知識 放射線 Q & A



Q 放射線と放射能の違いは？

A 放射線には人工的につくられるエックス線や放射線物質から出ているアルファ線、ベータ線、ガンマ線など色々な種類があります。放射線を自ら出す性質(能力)のことを放射能といい、このような放射能をもつ物質のことを放射性物質と呼びます。

Q 放射線の単位のシーベルトとはどのようなものですか？

A 放射線をどれくらい受けたかを表す単位にシーベルトという単位を使い[Sv]という記号で表します。これは放射線の体に及ぼす影響を考慮した単位です。1シーベルト[Sv] = 1000ミリシーベルト[mSv]

Q 放射線の量について教えてください

A 私たちは日常生活の中で自然界(宇宙・大地・食物)から様々な形で1年間に2.4ミリシーベルトの放射線を受けていますが、病院で使用されるエックス線検査で受ける線量は、胸部撮影では1回で0.03ミリシーベルト程度になります。自然放射線に比べて病院の検査で受ける線量は低く、その影響を心配する必要は殆どありません。

Q 医療では放射線をどのように利用されていますか？

A 胸部撮影・透視撮影。CT(コンピューター断層)撮影などにエックス線が利用されています。また、当院での設備はありませんがガンマ線を利用している核医学(RI)や高いエネルギーの放射線を利用する放射線治療などがあります。

第12回『介楽』を開催して

今回は、「いつまでも美味しくごはんを食べられるために」をテーマに掲げ、嚥下についての介護講座を11月9日(土)午後1時より2階理学療法室にて開催致しました。リハビリ3科より3名(ST難波江・PT竹内・OT藪谷)の講師が嚥下に関する基礎知識から予防と治療に至るまで限られた時間の中でメカニズムなど非常に判り易く講義して頂きました。

講義後のアンケートには、①「歯を強くするように歯磨きを充分に行い大切にして行きたい。」②「嚥下における気管と食道のしくみ」等、非常に勉強になった。という患者様・ご家族様からの意見を頂きました。

※次回は、平成26年2月開催予定となっておりますのでご期待下さい。

《教育委員会》

司会進行のST科 森岡主任→



嚥下のしくみと働きを説明しているST科 難波江(講師)



姿勢の変化で試飲の体験→

協和会病院ご案内

医療法人協和会 協和会病院 吹田市岸部北1丁目24番1号 (代)06-6339-3455

- 理事長/北川 透
- 院長/増田 公人
- 開院年月日/1988年(S63)3月
- 診療科目/内科、消化器科、整形外科、脳神経外科、放射線科、リウマチ科、リハビリテーション科
- 専門外来/泌尿器科(月曜日13:00~14:45) 神経内科(木曜日 9:00~11:30)
- 診察時間/午前診 9:00~12:00(月~土曜日)
- ※救急医療については、24時間お受けしております。

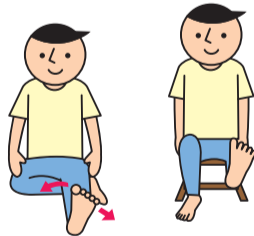
診療放射線技師からのメッセージ

私たちは、安心してエックス線検査をお受け頂けるよう、安全管理を常に心掛けております。《診療放射線技師 北村博司》

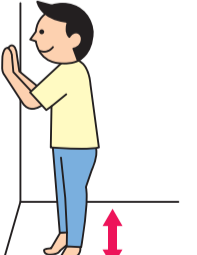
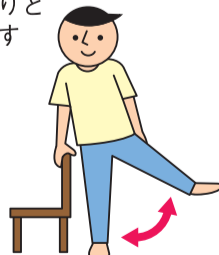


寒い日が続くと、体を動かす機会が減ってしまう方もいらっしゃると思います。そこで今回は、ご自宅でできる簡単な筋力増強運動をご紹介します。

- ① 足の指を「グー」と「パー」交互に動かします
- ② 踵を床に付け、つま先を上げ下げします
- ③ 椅子に座り、つま先で床を押しながら踵を上げます



- ④ 椅子に座り、膝を伸ばします
- ⑤ 椅子やテーブルを持ち、片方の足をゆっくりと横に開き、ゆっくりと閉じます
- ⑥ 壁などを支えにして、足ふみの運動をします
- ⑦ 壁などを支えにして、踵上げの運動をします



回数は10回程度からスタートし、無理のない範囲で調整して下さい。筋肉が「やや疲れる」程度の運動量が目安です。整形疾患、また心疾患や呼吸器疾患など内科系のご病気のある方は主治医にご相談下さい。また、関節等に痛みが生じた場合は運動を中止して下さい。

《理学療法科リーダー 河西由喜》

病院理念

知・技・心

専門的な知識と技術の向上を図り心をこめて安心の医療を提供します

基本方針

1. 「患者様中心」を常に心がけ、満足な医療を提供します
1. 患者様の人権を尊重し、公平な医療を提供します
1. 急性期から慢性期まで、地域と連携した医療を提供します
1. チーム医療を推進し、質の高い医療を提供します
1. 人員・設備・環境を整え、安心で安全な医療を提供します

医療法人協和会 協和会病院 2012.4.1

編集後記

師走の12月は、まさに字の如く月日が走り去ろうとしています。クリスマスが過ぎると急いでお正月の準備をし、新年を待つこととなります。皆様も平成26年を迎えるにあたり夢と希望をしっかり引き寄せられるように自己管理に充分努めましょう。ちなみに今年の冬は例年になく寒いという予報です。次号は、平成26年5月頃を予定しておりますので、ご期待下さい。 《広報誌委員会：放射線科 北村博司》